

# 空間共有型3D遠隔コミュニケーション

～新たな遠隔コミュニケーションの実現～

## 01 技術開発の背景・目的

昨今、DXの推進により、テレワークやWEB会議が一般的となり、コミュニケーション環境も大きく変化してきている。

一方で、こうしたテレワークやWeb会議では、コミュニケーション手段が制約されるため、相手の仕草や行動の伝達が難しく、会話以上のコミュニケーションは困難である。

本研究では、遠隔地にいる人が同じ空間にいるかのような新たな3Dコミュニケーション技術の実現を目指す。



Microsoft HoloLens2

**MR (Mixed Reality) : 複合現実**  
現実空間と仮想空間を混合し、現実のモノと仮想的なモノがリアルタイムで影響しあう新たな空間を構築する技術

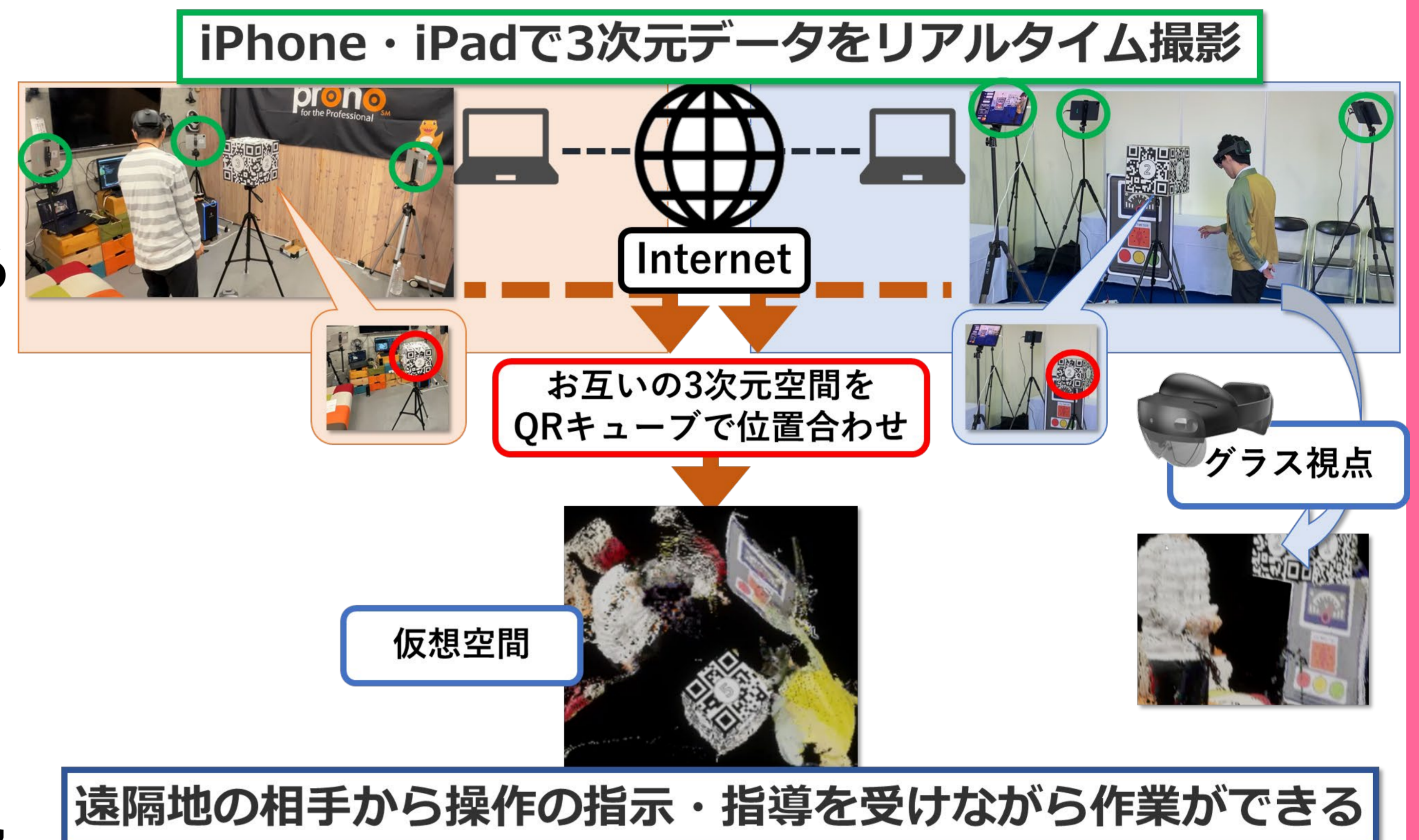
## 02 特長・用途

### 特長

- まるで同じ空間にいるかのようなリアルな対面体験
- 3Dテクノロジーにより、相手の存在を立体的に感じる
- QRキューブにより相互の位置関係を高精度に再現
- 人だけでなく、物や部屋も共有
- 3次元映像の保存や再生

### 用途

- ・実際に対面しているかのようなWeb会議の実現
- ・リモートによる実技研修や体験型教育の実現
- ・実作業現場を共有できる遠隔監視や遠隔作業支援の実現

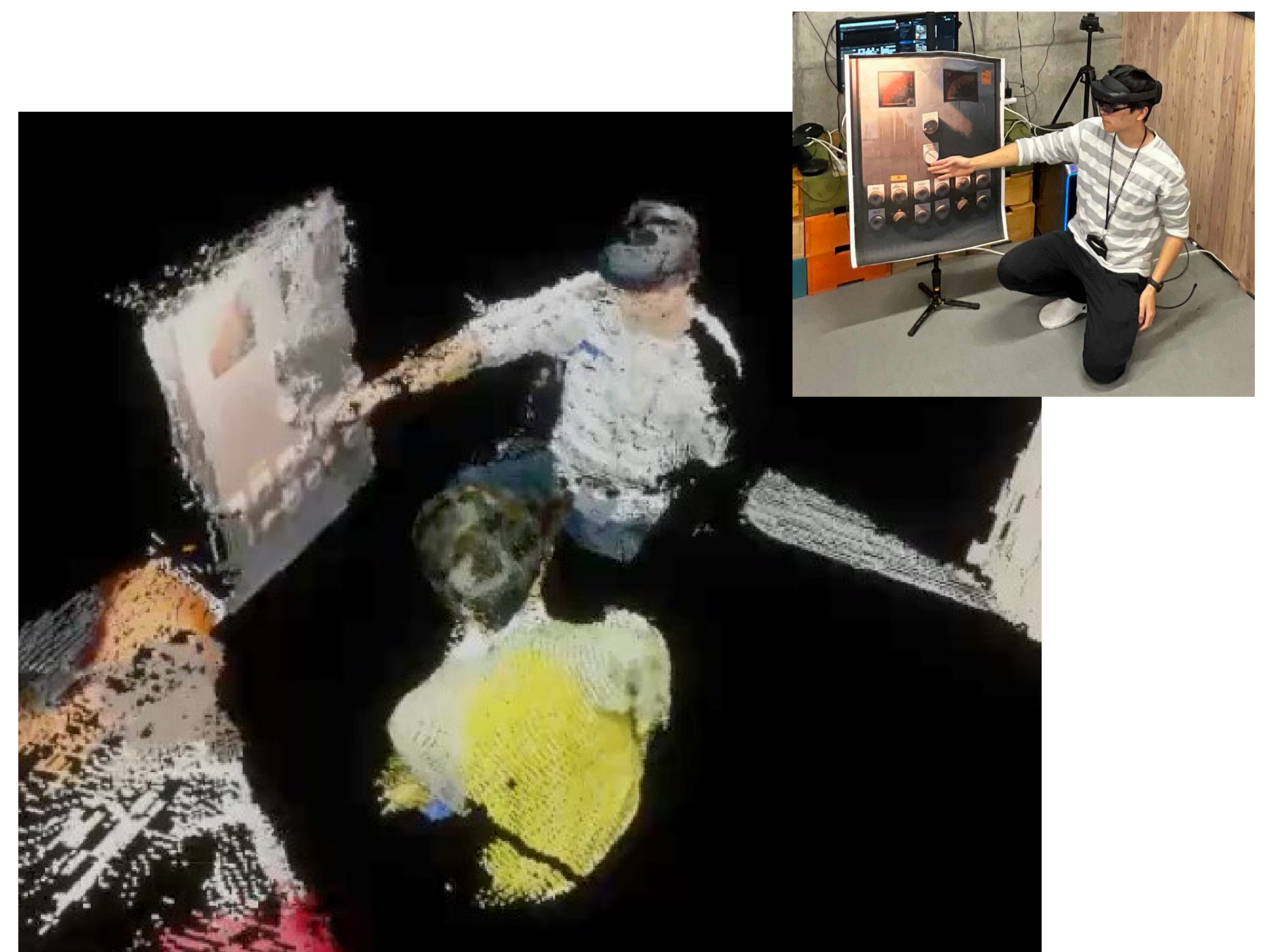


## 03 社会実装に向けた取り組み

中電PGの訓練場や研修設備で実施しているケーブル接続・故障点測定等の訓練において、事務所から遠隔で現場の訓練状況を確認・直接指導を行う実施検証を計画している。

### ○期待効果

- ・外部講師等が現場に行かなくても指導可能
  - ・拠点支社からの遠隔指導による各支社の保有技術の共有化
- 技術共有による支社ごとの技術力の底上げ



※写真はイメージです。

## 04 研究者より

遠方や海外のような遠隔地の相手でも対面と同じように「会う」ことができればという想いで研究を開始しました。今後も人と人をつなぐようなテーマについて研究していきたいと考えています。

中部電力(株) 技術開発本部  
先端技術応用研究所



プロジェクト推進グループ  
岡本主任